

人口ビジョン

第5次基本構想・前期基本計画の前提となる、将来的な人口推計は以下のとおりです。なお、第5次基本構想・前期基本計画は、第2期小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略と一体的に策定していることから、人口推計は国の第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の方針にのっとり、令和3年(2021年)から令和42年(2060年)までの期間で推計を行っています。

推計手法

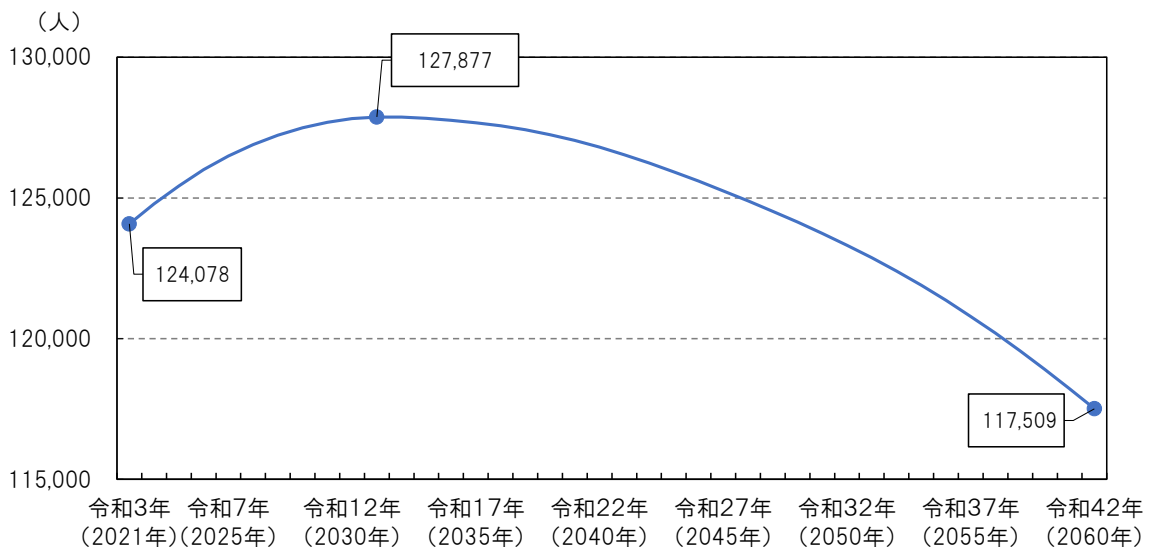
人口推計では0～115歳の年齢別人口を、1年ごとにコーホート要因法を用いて武蔵小金井地区、東小金井地区、野川地区それぞれで推計し、市域全体の推計はそれらを合計しました。毎年0歳の人口は、15～49歳の5歳階級ごとの出生数を、各階級の合計特殊出生率に基づいて算出し、合計することで得ています。

武蔵小金井地区 …関野町2丁目、緑町3～5丁目、中町3丁目、本町、桜町、貫井北町、貫井南町3丁目
東小金井地区 …東町、梶野町、関野町1丁目、緑町1～2丁目、中町2丁目
野川地区 …中町1、4丁目、前原町、貫井南町1、2、4、5丁目

○推計期間	令和3年(2021年)～令和42年(2060年)
○基準人口	令和3年(2021年)4月1日(住民基本台帳)
○出生率	過去の実績から合計特殊出生率の平均値(1.12)が期間中一定に推移すると仮定
○移動率	今後10年間で人口の移動が減少すると想定し、平成23年(2011年)～令和3年(2021年)の転入・転出状況を基準として、令和12年(2030年)までかけて半減し、その後は一定に推移すると仮定

人口推計

人口は、令和13年(2031年)の127,877人をピークとして減少します。令和42年(2060年)の推計人口は117,509人となり、令和3年(2021年)よりも約6,600人減少します。

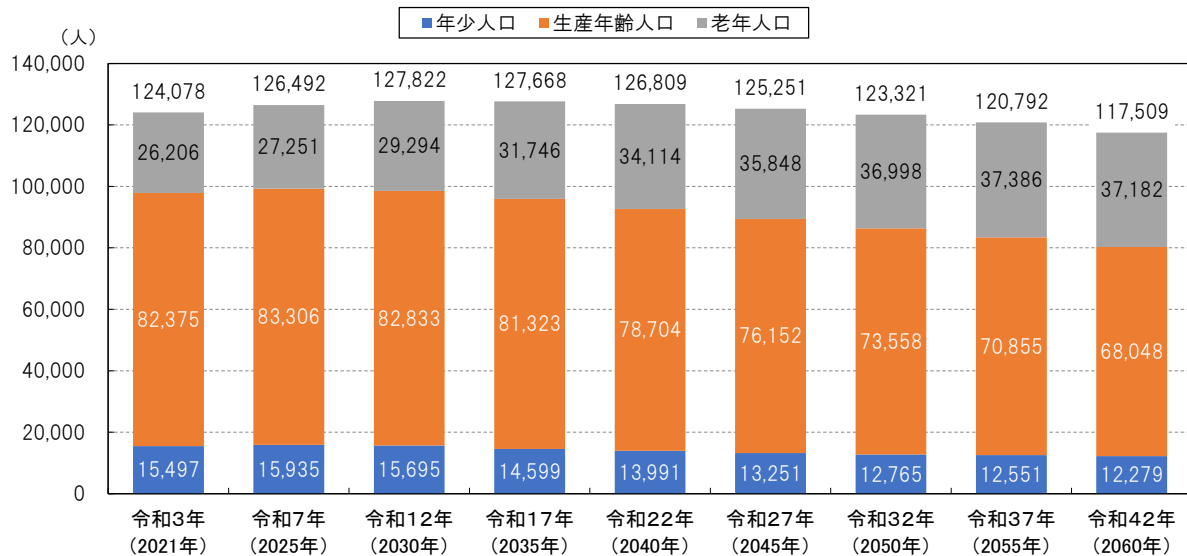


人口推計

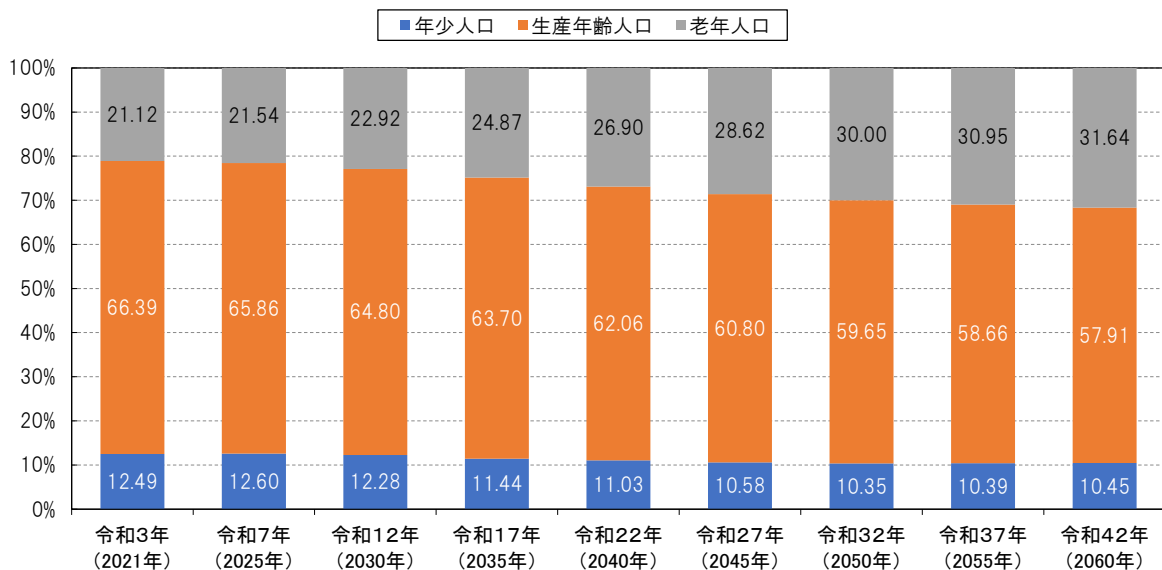
人口構成の変化

5年ごとに年齢3区別の人口推移を見ると、令和37年(2055年)まで65歳以上(老年人口)が増えます。0～14歳(年少人口)、15～64歳(生産年齢人口)は令和7年(2025年)まで増加しますが、その後、減少に転じます。

年齢3区別の割合では年々、高齢化率が上昇し、令和32年(2050年)には30%を上回ります。また、出生数が増えない中、移動が少なくなることから、人口増加につながっていると考えられる20歳代前半の転入者も少なくなることで影響しているものと推察されます。



5年ごとの年齢3区別人口の推移



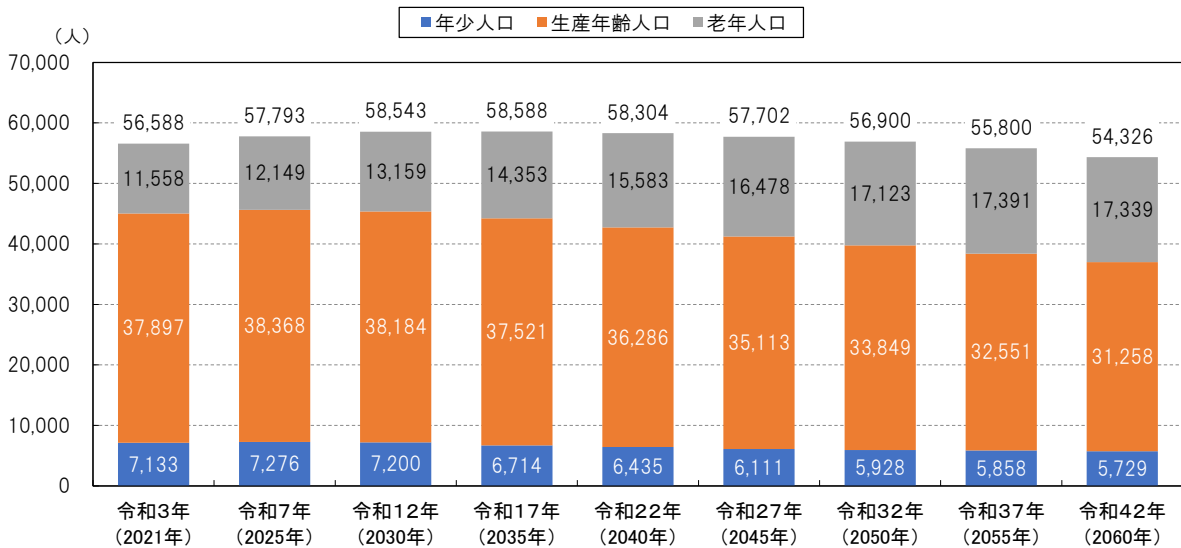
5年ごとの年齢3区別人口割合の推移

※小数点以下第3位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

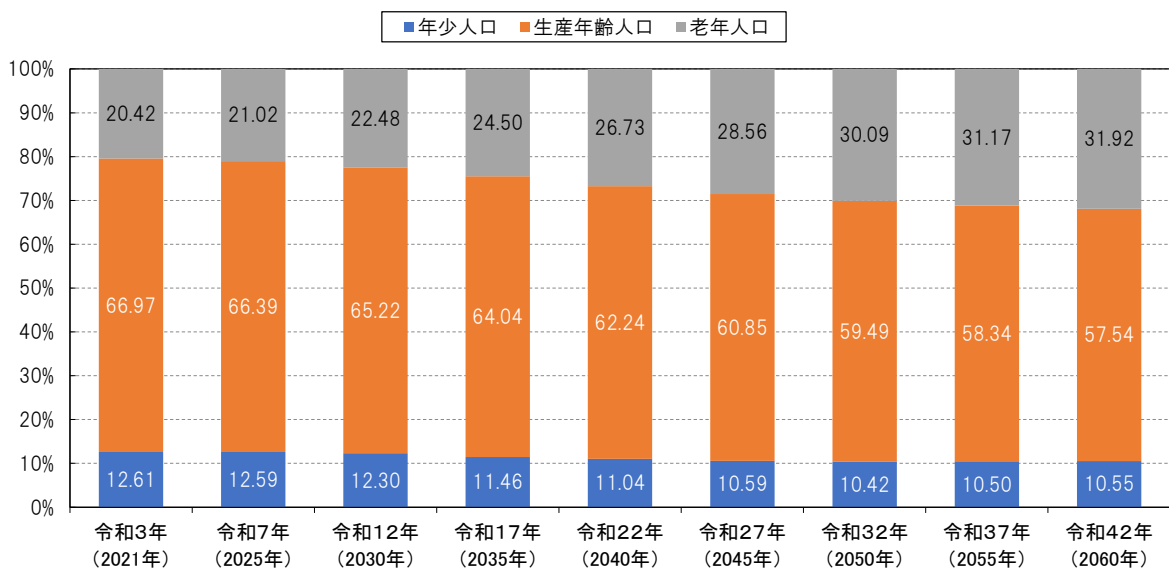
地区別の人口推計

①武蔵小金井地区

5年ごとの推移を見ると、令和17年(2035年)の58,588人をピークとして減少し、令和42年(2060年)には54,326人となります。令和3年(2021年)と比べると約2,300人減少します。高齢化率は上昇し続け、令和42年(2060年)には31.92%となります。



武蔵小金井地区における5年ごとの年齢3区分別人口の推移

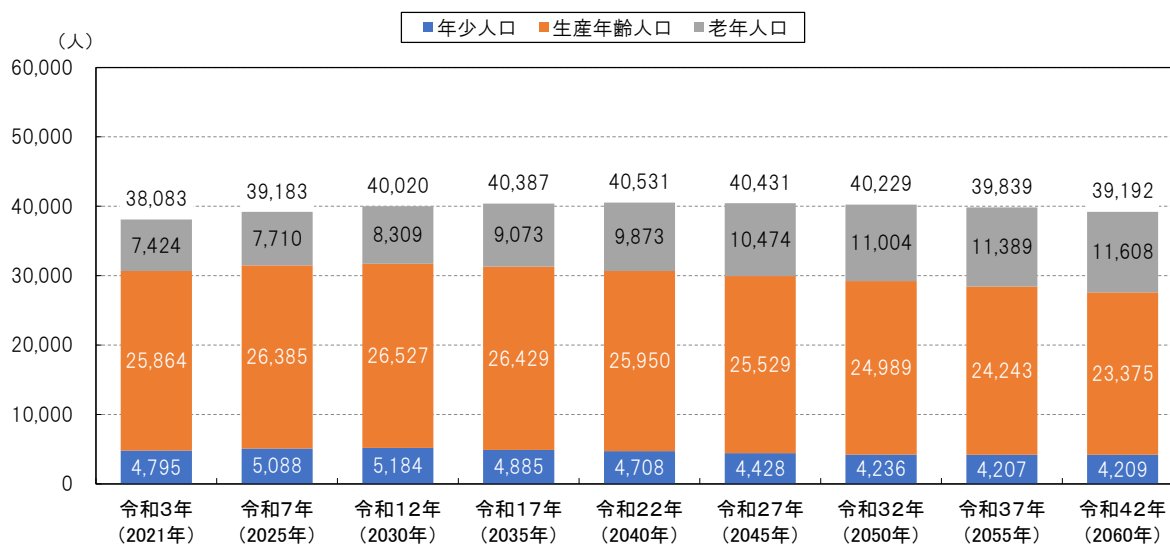


武蔵小金井地区における5年ごとの年齢3区分別人口割合の推移

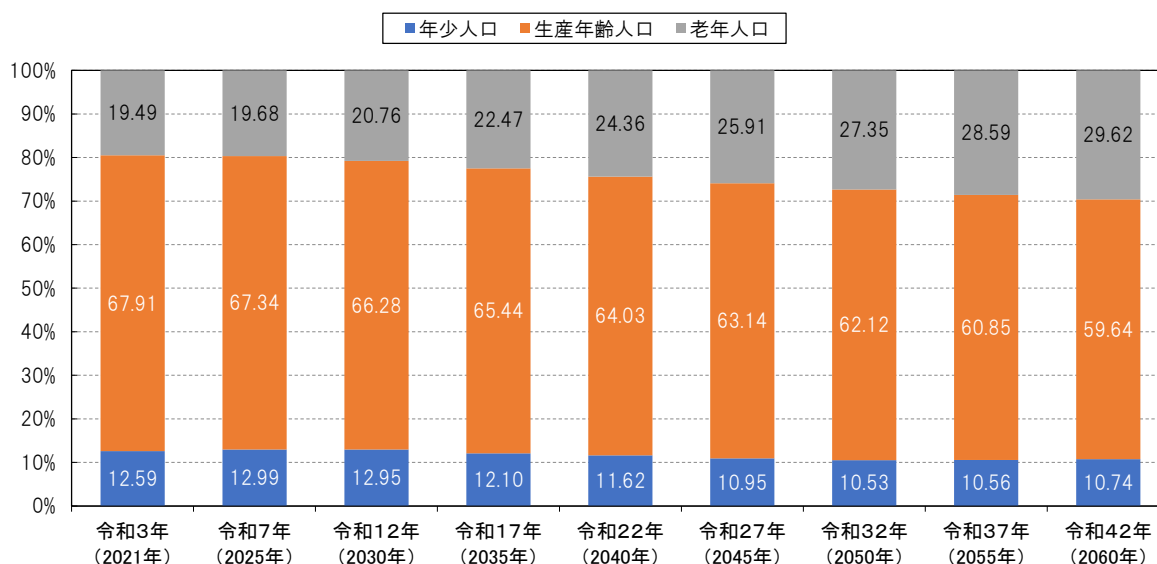
※小数点以下第3位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

②東小金井地区

5年ごとの推移を見ると、令和22年(2040年)の40,531人をピークとして減少し、令和42年(2060年)には39,192人となります。令和3年(2021年)の人口と大きく差はありません。高齢化率は上昇し続け、令和42年(2060年)には29.62%となります。



東小金井地区における5年ごとの年齢3区分別人口の推移

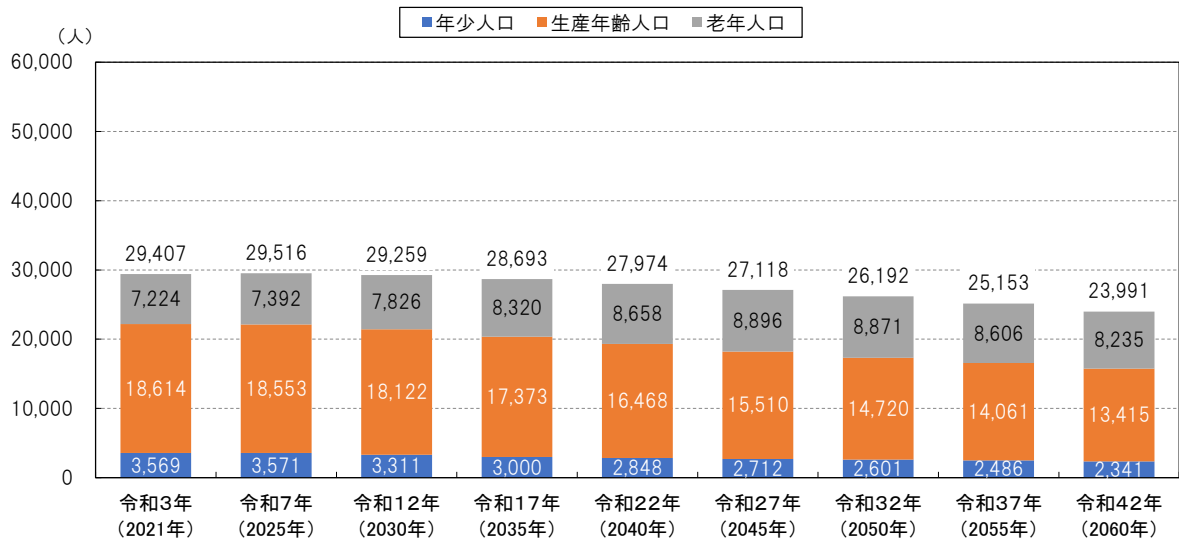


東小金井地区における5年ごとの年齢3区分別人口割合の推移

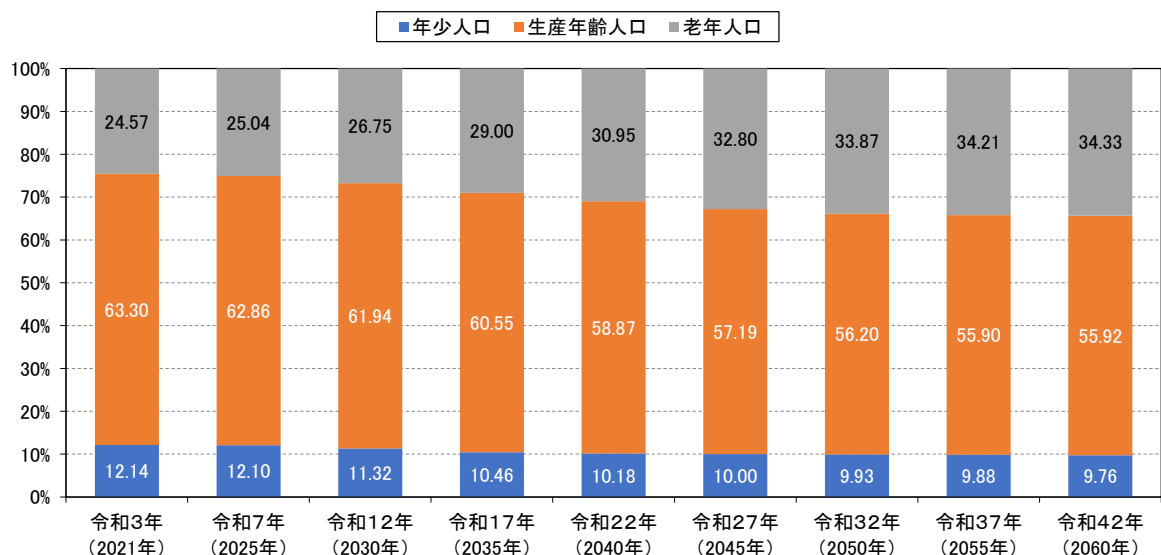
※小数点以下第3位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

③野川地区

5年ごとの推移を見ると、令和7年(2025年)の29,516人をピークとして減少し、令和42年(2060年)には23,991人となります。令和3年(2021年)と比べると約5,400人減少します。高齢化率は増加し続け、令和42年(2060年)には34.33%となります。



野川地区における5年ごとの年齢3区分別人口の推移



野川地区における5年ごとの年齢3区分別人口割合の推移

※小数点以下第3位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。